

民報 ゆうばり

再生への新たな期待CBM!

自然エネルギーの共生型ファーム始動!



「市長と話そう会」

1. 夕張市の概況(人口)
最盛期約 12 万人から現在 1 万 1 千 2 百 50 人前後に減少している。人口問題研究所

2 月 12 日午後 6 時半から清水沢研修センターにおいてゆうばり再生

「市長と話そう会」 再生市民会議が開催

市民会議が主催する「市長と話そう会」が、開催されました。主催者沢井代表から「未来の夕張を考えるとき、今話題の CBM (炭層メタンガス) とのかかわりについて、市長からお話を」とあいさつがありました。鈴木直道市長は、スクリーンに説明資料を映しながら、「夕張市が目指すコンパクトシティと CBM への期待」持続可能なまちづくりを目標として」と題して、つぎのように語りました。

コンパクトシティと CBM への期待

資料より)

2. 夕張市の概況(地勢)
南北 35 km、東西 25 km。JR 沿線 6 地区、それ以外 3 地区に分かれている。

3. コンパクトシティの基本的考え方
持続可能な街の形成のために、住宅を
集約化する・医療・

交通・子育ての充実が重要政策。

4. 地域資源を活かしたまちづくりの推進
地下に眠る石炭への期待と活用の可能性。CO2 排出を抑えるエネルギーへの注目。CO2 を削減する石炭由来の CBM (炭層メタンガス) の活用が夕張で可能。

*「なぜ夕張?」

夕張は「全国で一番有力な石狩炭田」の中でも炭層が厚く、ガス包蔵量が多いため、開発最有力地! CBM を地域ローカルエネルギーとして活用し地域再生の切り札へとし、試験費用は 1 本 1 億円、実用化には 2 3 本必要とされ、国にも働きかけが必要。問題点として、発電では、地域エネルギーの買取制度などの検討課題がある。

ゆうばり共生型ファーム開所式! —自然エネルギーで通年栽培—

2 月 16 日(日)11 時から、旧夕張小学校でゆうばり共生型ファームの開所式が関係者や地域方々の参加で行われました。

このファームは、「どんなに重い障がいを持っていても地域で暮らせること、そして高齢の方も、大人も子どもも、どんな方でも集える地域の拠点として活動できる場所づくりを理念としている「一般社団法人らぶらす」が運営しています。

安齊尚朋代表理事の挨拶の後、早速、体育館に作られたビニールハウスを見学。外の寒さにもかかわらず育つチコリやホワイトアスパラガスの栽培に必要なエネルギーは、廃坑からの鉱泉を利用した小水力発電や地中熱、雪を利用したシステムなどによりすべて自然エネルギーで賄われるという先進的なシステムが取り入れられています。

温度制御装置もその一環で、温度管理がなされ通年栽培ができる事など、技術者の方から説明がありました。

見学の後は、部屋(地域カフェが予定されている元職員室)にもどり、チコリやホワイトアスパラガスの試食会が行われました。

4 月からは、本格的に営業が始まります。



(ハウスのチコリ)

*また、「一般社団法人らぶらす」は、すでに「はまなす会館」を拠点として、高齢者向け配食や児童発達支援事業を行っています。

夕張市防災マップ配布

居住地域の危険度再認識

くまがい市議の

提案実現

2月の夕張市広報と一緒に配布された「夕張市防災マップ」に改めて関心が広がっています。

11月には地域での意見交換会も開催されていきました。このほどようやく完成し、各家庭に配布されると「夕張は地震に強いと聞いていたが、多くの地域で震度6の可能性が



ある「土石流は随所で要注意」などの反響が広がっています。かつて、集中豪雨

で川沿いの住宅を押し流し、大きな被害を出した経緯もありこの「防災マップ」の避難先の明示は住民にとって歓迎されています。

また、「どの地域も川にそった地形でガク崩れや地滑りなどの心配があり、日頃の心構えになる」と話題になっています。

翌4月の市議会議員選挙で当選した、くまがい市議は直後から市に「防災マップ」の作成を提案し、その後何度も粘り強く議会で提案を重ねてきました。

夕張市議会「ゆうばり小6年生と意見交換会」

2月13日、ゆうばり小学校6年生の子どもたちが夕張市議会を訪問し、「意見交換会」が開催されました。

この取り組みは、小学校の公民の授業の一環として2年前から開催され、今年で3年目をむかえます。

高橋一太議長が市議会の仕組みをひとつと説明した後、議場の議員席に座った子どもたちから、理事者側に座った市議に向けて、たくさんの意見や質問が出されました。

「商店を増やしてほしい」「公園や遊園地がほしい」「図書館がほしい」「熊や鹿の対策を」「温水プールがほしい」「わくわくプロジェクトをもっとたくさんやってほしい」「除雪・排雪の問題」「軽自動車の税金は夕張も上がるのか」等の意見や質問に、市議会議員の皆さんが財政再生団体の話や国の許可などにも触れながら、一つひとつていねいにわかりやすく説明していました。

最後に小山諒佳さんがお礼のあいさつを述べ、終了しました。



日本共産党
北海道委員会書記長

島和也の「かけある記」

「もっとやれるはず」

九日に北海道の党会議がおこなわれ、私は北海道委員会の書記長に就くこととなりました。党務全般の取り仕切り役でも言えば、イメージしていただけるでしょうか。それでも事務所にこもりっぱなしにならず、十五日には音更町の「新春のつどい」、二十二日には市議選挙を控える北見市の演説会へ足を運びます。新たな決意でがんばりますので、よろしくお願ひします。

ところで、読者のみなさんは「党会議」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか。会議と言うだけで堅苦しい感じでしょうか、実際の討論は笑いあり、涙ありで、代議員一人ひとりの持ち味がある発言が続きます。それでも自身は「政治を変える」思いがギッシリ。

バイトを四つ掛け持ちしながら中学生の第二人を養う青年が入党したり、農家の方が相次いで入党していたり、二十年かけて党員が有権者の一%まで増えた町があったり、党へ期待をして参加している一人ひとりの気持ちを考えたら、本当に胸がいっぱいになりました。そして自分は、もっとやれるはずではないのか、と……。

うまくいかないことも失敗も、少なからず私も経験してきました。その一方で、自分の中では逃げずに挑戦していこうとも思ってきました。自民党の暴走に立ち向かえる党がない中で、日本共産党こそ大きくしていきたい。中間選挙、来年のいっせいで地方選挙と続いていく関門を、党員・読者のみなさんと突き進んでいきたいと思っています。